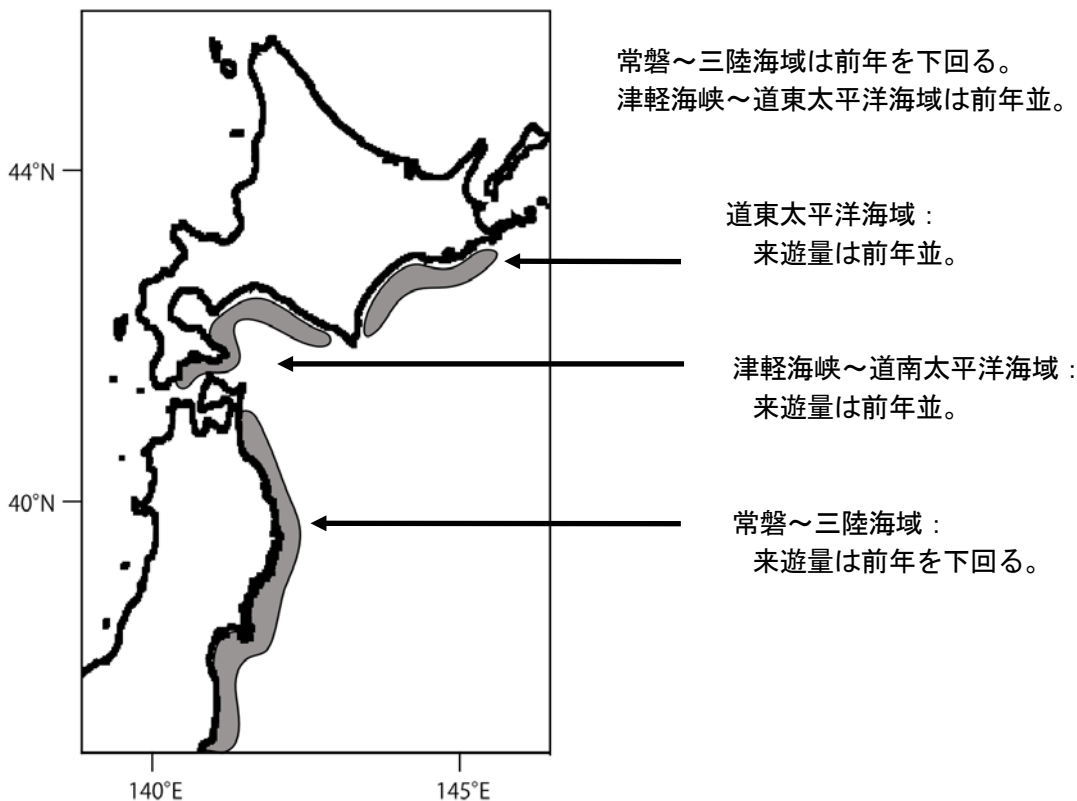


平成30年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成30年9月)のポイント



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部

担当：渡邊、藤井

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成30年度 第1回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2018年9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2018年級群）

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量：前年並。
- (2) 漁期・漁場：漁場は散発的となる。

I 予報の説明

第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報公表後の漁況の経過等を主要な情報として、9月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、常磐～三陸海域では前年を下回り、津軽海峡～道東太平洋では前年並となった。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 常磐～三陸海域

漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）における第1回漁場一斉調査でのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は前年を下回った（図1）。

6月～7月における青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による旬別漁獲量は、6月は前年並であったが、7月は前年を下回った。一方、旬別CPUE（1日1隻当たり水揚量）は、6月は前年を上回り、7月上旬は下回ったものの、7月中下旬は前年を上回った。

8月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は前年を下回り（前年305.5トン、本年201.6トン）、CPUEは前年並であった（前年0.20トン/隻/日、本年0.19トン/隻/日）。岩手県主要7港における漁獲量は、前年を下回り（前年91.0トン、本年11.5トン）、CPUEも前年を下回った（前年0.31トン/隻/日、本年0.18トン/隻/日）。宮城県（石巻・気仙沼）の小型いか釣り漁船による漁獲量は、前年を上回り（前年0.2トン、本年1.0トン）、CPUEは前年並であった（前年0.03トン/隻/日、本年0.02トン/隻/日）。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を下回り（前年396.8トン、本年214.0トン）、CPUEは前年を下回った（前年0.24トン/隻/日、本年0.11トン/隻/日）。

三陸周辺海域における第1回漁場一斉調査でのCPUEおよび6月～8月中旬における当海域の漁況から、太平洋沿岸域を北上した群れの来遊量は前年を下回ったと考えられる。水産研究・教育機構の海況予測システム（FRA-ROMS*）によると、親潮第一分枝は前年よりも弱いと予測されており（図2）、常磐～三陸海域には津軽暖流および沖合からの北上暖水が波及することから、沖合からの魚群の来遊は持続する可能性がある。しかし、三陸周辺海域における第1回漁場一斉調査でのCPUEが前年を下回り、8月中旬までの漁況から来遊量も前年を下回っていると考えられることから、9月における常磐～三陸海域への来遊量は前年を下回ると予測される。

*国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム。本予報には、2018年8月23日にホームページに記載されていた予測情報を使用した。

2. 津軽海峡～道南太平洋

漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群と津軽海峡から来遊する日本海由来の群が含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域（41°N以北、143°E以西）における第1回漁場一斉調査でのCPUEは前年並であった（図1）。

6月～7月における小型いか釣り漁船の漁況は、大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、6月は旬別漁獲量、CPUEともに前年並であったが、7月は旬別漁獲量、CPUEともに前年を上回った。

8月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、

前年を下回り(前年 64.1 トン、本年 3.8 トン)、CPUE も前年を下回った(前年 0.16 トン/隻/日、本年 0.03 トン/隻/日)。函館港における漁獲量は前年並であり(前年 37.7 トン、本年 44.6 トン)、CPUE は前年を上回った(前年 0.13 トン/隻/日、本年 0.17 トン/隻/日)。浦河港における漁獲量は、前年を上回り(前年 0 トン、本年 41.7 トン)、CPUE も前年を上回った(前年 0.0 トン/隻/日、本年 0.49 トン/隻/日)。大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、漁獲量は前年並であり(前年 101.8 トン、本年 90.0 トン)、CPUE は前年を上回った(前年 0.15 トン/隻/日、本年 0.20 トン/隻/日)。

津軽海峡～道南太平洋海域における第 1 回漁場一斉調査での CPUE は前年並であったが、6 月～8 月中旬における漁況から、当海域への来遊量は前年を上回ったと考えられる。

FRA-ROMS によると、親潮第一分枝は前年よりも弱いと予測されており、当海域に津軽暖流が張り出していることから(図 2)、来遊は持続すると考えられる。しかし、常磐～三陸海域における来遊量が前年を下回っていること、第 1 回漁場一斉調査での CPUE が前年並であることから、9 月における津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年並であると予測される。

3. 道東太平洋

漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられる。第1回漁場一斉調査における沖合域(143°E以東)での CPUEは前年並であった(図1)。

また、北海道立総合研究機構釧路水産試験場北辰丸が2018年8月17～22日に行った道東太平洋沿岸におけるイカ類南下期資源調査結果では、襟裳岬東側でまとまった漁獲があったもののその他の調査地点のCPUE(イカ釣り機1台1時間あたり漁獲尾数)は低い値にとどまった(北海道浮漁ニュース平成30年度14号)。

8 月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、厚岸港でのみ水揚があり、漁獲量(前年 0 トン、本年 0.3 トン)、CPUE(前年 0.0 トン/隻/日、本年 0.16 トン/隻/日)ともに極めて少なかった。これらのことから、道東太平洋へのスルメイカの来遊量は前年並に少なかったと考えられる。

FRA-ROMSによると、道東太平洋沿岸域の水温は平年並と予測されており(図2)、来遊が持続すると考えられる。しかし、第1回漁場一斉調査での沖合域のCPUEが低いこと、8月上中旬の来遊量も前年並に少ないことから、9月における道東太平洋への来遊量は前年並であると予測される。さらに、北辰丸の調査結果によると魚群の分布に偏りがあることから、漁場は散発的に形成されるものと予測される。

II 各海域の漁況経過（6月～8月中旬）

2018年6月～8月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港での漁獲量（生鮮：速報値、一部未集計）は892.3トンで、前年（2,005トン）を下回った。

1. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港）における2018年6月～8月中旬の合計漁獲量は724.3トンで、前年（1,862トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-1に示す。

2. 津軽海峡～道南太平洋

大畑港、函館港、浦河港における2018年6月～8月中旬の合計漁獲量は167.7トンで、前年並（143.4トン）であった。旬別の漁況の経過を図3-2に示す。

3. 道東太平洋

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2017年6月～8月中旬の合計漁獲量は0.3トンで、前年（0トン）を上回った。旬別の漁況の経過を図3-3に示す。

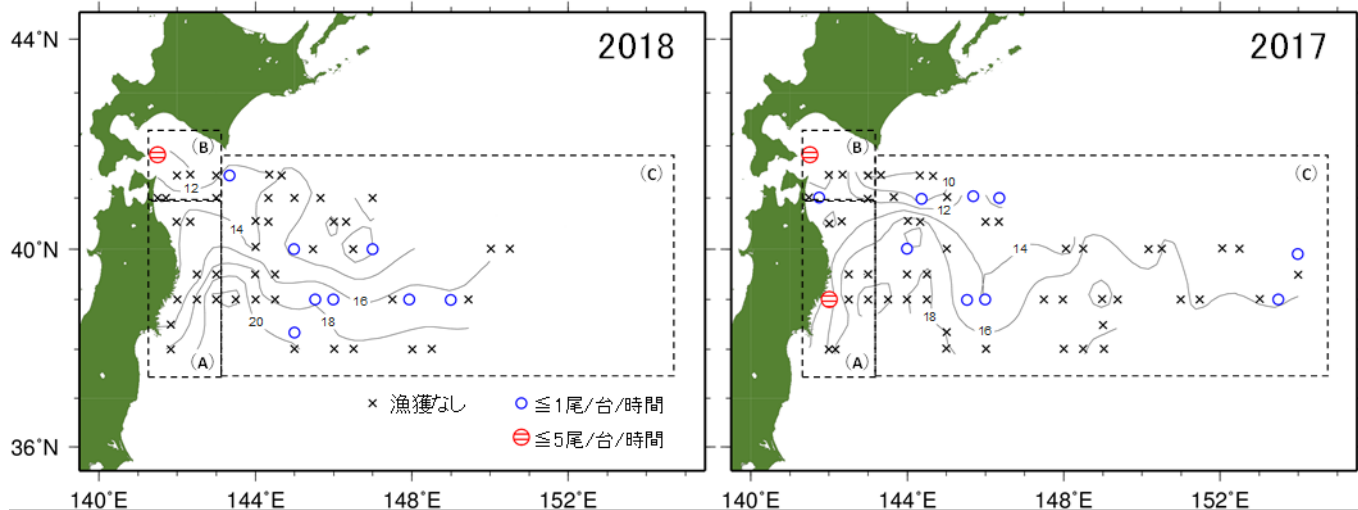
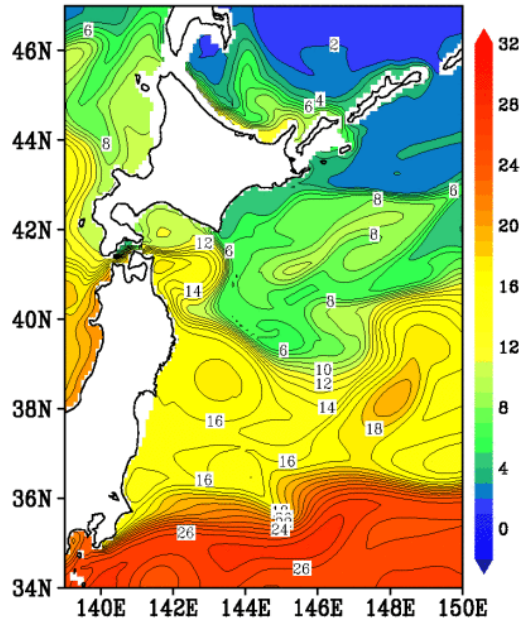


図1. 太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査の結果（平成30年度第1回太平洋スルメイカ長期漁海況予報より抜粋）

2017年、2018年5月下旬～7月上旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数）の分布。×は漁獲が無かった点。実線は等温線（海面水温）を示す。

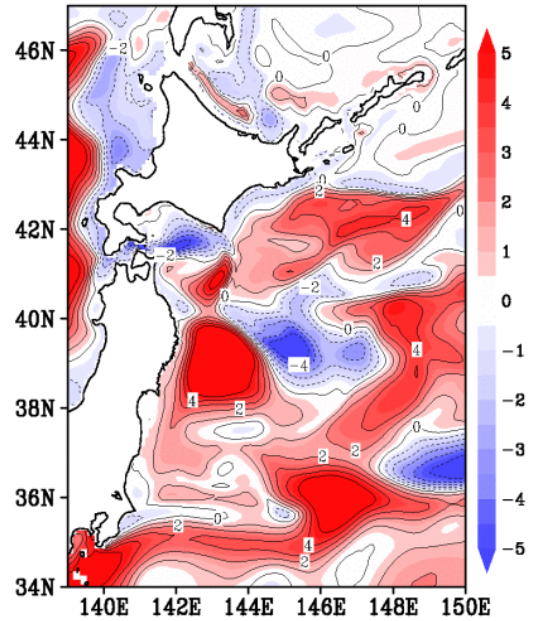
FRA-ROMS

2018/09-early Temperature[°C] (50m)



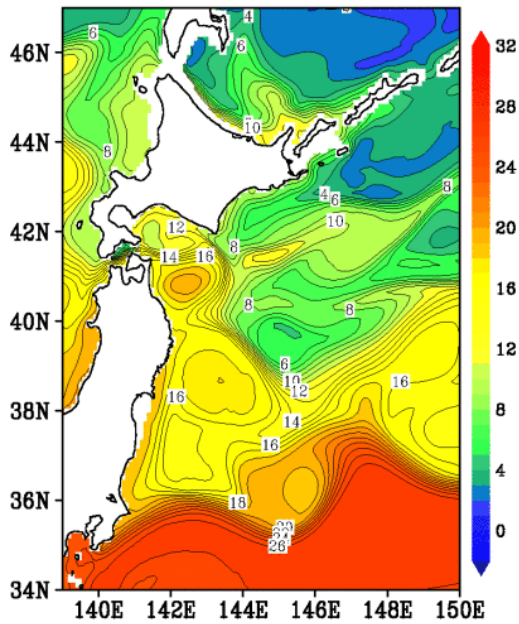
FRA-ROMS

2018/09-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS

2018/09-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS

2018/09-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

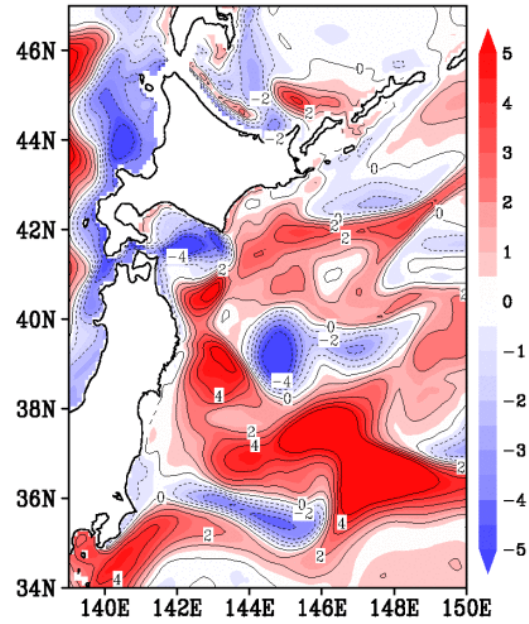


図2. 海況予測システムFRA-ROMSによる2018年9月上旬と下旬の50m深予測水温(左図)および平年差(右図)
注: 50m深はスルメイカの代表的な分布深度

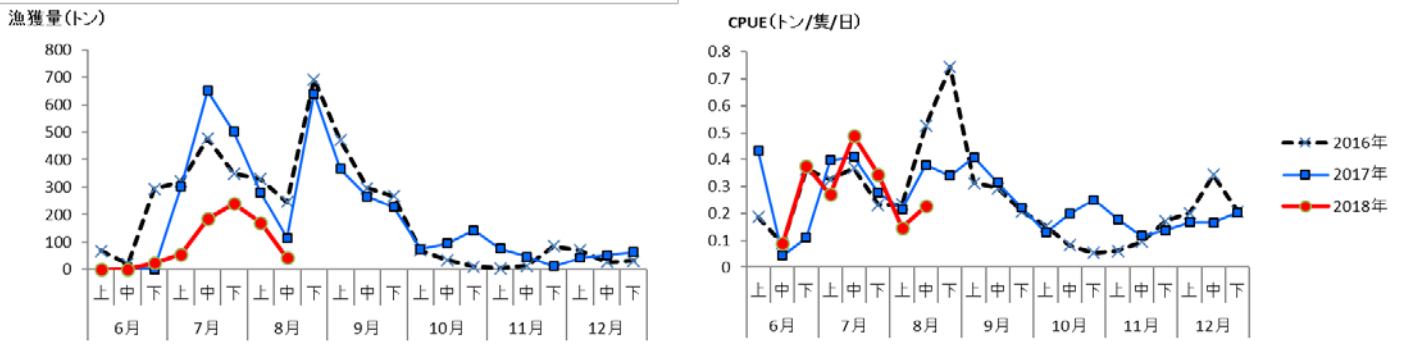


図3-1. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE
 (CPUEの計算は、白糠港～大船渡港のデータを使用)

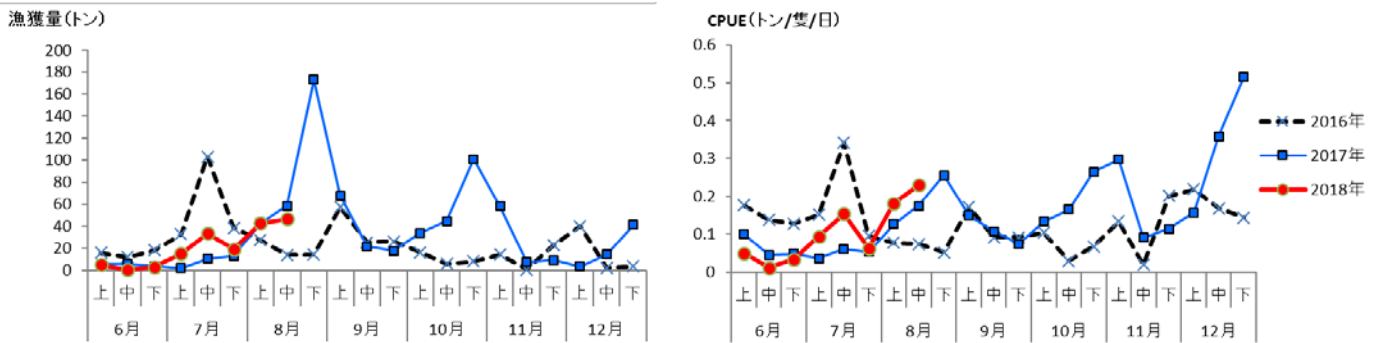


図3-2. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

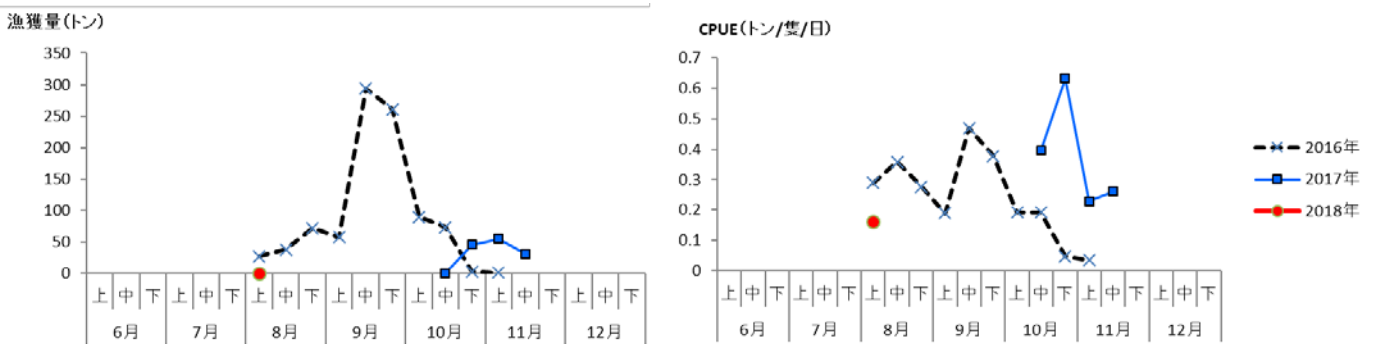


図3-3. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカの釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（トン/隻/日）

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
福島県水産海洋研究センター	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産技術研究所	